教頭通信デジタル

令和４年９月１３日（火）第１２号　　　　文責：備前市立三石中学校　早川政宏

岡本莉奈先生が研究授業を行いました

９月１２日（月）５校時、備前市教育庁小中一貫教育課から指導の先生をお迎えし、１年Ａ組で岡本先生が国語の研究授業を行いました。本時の目標は『よりよい案内文について考え、伝える事柄・目的・相手に応じて情報を精選することができる』でした。教材として学習発表会の案内文を取り上げ、分かりやすい案内文を書くにはどうすれば良いのかを考えました。案内文を配付する相手を【保護者】【小学生】【地域の方々】の３つの中から１つ選び、伝える相手に応じた情報（案内文の記載内容）を考え精選しました。授業には、個人でじっくりと思考する場面とグループで意見交流する場面が設けられており、協働的な学習をとおして、どの生徒も深い学びをすることができました。ＩＣＴ機器（１人１台タブレット端末）も効果的に活用するなど、国や県が推進しているＧＩＧＡスクール構想にも対応していました。

教頭の視点

①　教材として学習発表会の案内文を取り上げることで、生徒にとっては授業が非常に身近になり、主体的に取り組むことができていました。　**【主体的】**

②　グループで意見交流する場面が設けられており、対話的な学びが確保されていました。　**【対話的】**

③　思考が【個人→グループ→個人】となっており、１人１人を深い学びにコーディネートすることができていました。思考する時間も１０分以上設定されていました。　**【深い学び】**

本デジタル通信第１号でも紹介したように、本校の指導の重点は「学び」「表現」「自治」の「３つの見える化」の推進です。**今回の岡本先生の授業では、生徒が主体的に学び、思考し、お互いの考えを重ね合う活動を見ることができました。まさに、「学び」が見える授業でした。**中学校は小学校とは異なり教科担任制なので、岡本先生以外に国語を指導する先生はいませんが、今回の研究授業で研修することができたエッセンスを他教科でも取り入れ、主体的・対話的で深い学びができるよう授業改善を一層推進していきます。